



文化財愛護
シンボルマーク

北条町埋蔵文化財報告書24

鳥取県東伯郡北条町



Chōnai
町内遺跡発掘調査報告書

第 7 集

1998. 3

北条町教育委員会

鳥取県東伯郡北条町

町内遺跡発掘調査報告書

第 7 集

1998. 3

北条町教育委員会

序 文

北条町は、鳥取県中部に位置し、北は日本海に面した砂丘地が広がり、中央は水田、南は丘陵を呈する総面積21kmの小さな町です。本町の遺跡分布図によりますと、丘陵部に600件もの古墳が存在しており、その密度は県下一といえます。しかし、現在も未踏査区が広範囲に及ぶため、遺跡件数はさらに増すものと思われます。これら地域の文化水準向上に結びつく資源を解明、活用していくことによって地域文化に生かし、また、後世に伝えるために文化財を保護していくことが私たちの責務であると考えております。

今回の調査は、北条町土下地内で行われる山土残土埋め立て工事、曲地内で行われるふるさと林道整備工事、そして米里地内で行われる一般国道313号（地域高規格）北条倉吉道路工事に伴い、工事予定地内の遺跡の有無、範囲を確認するための試掘調査であります。北条町教育委員会が主体となり、事業主体者をはじめ、地元関係者と綿密な連絡を取り合い調査を進めてまいりました。

調査にあたって、鳥取県教育委員会文化課及び鳥取県埋蔵文化財センターのご指導はもとより地元作業員、その他調査関係者各位の多大なるご理解、ご協力をいただきました。その結果、土下、曲、米里の各調査地において古墳及び住居跡の検出という成果を得るに至り、深く感謝申し上げる次第であります。

これを契機といたしまして、地域の生活文化水準向上に資する文化財の保護に一層力を注いでいく所存でありますので、今後とも各位のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

1998（平成10）年3月

北条町教育委員会

教育長 吉 田 俊 夫

例　　言

1. 本報告書は、平成9年度、鳥取県東伯郡北条町教育委員会が国と県から補助金を受けて実施した「町内遺跡発掘調査事業」の報告書である。
2. 今年度の調査は、鳥取県東伯郡北条町土下字奥鍾錦谷、そして曲字塔場後口、狼谷峰、千場、妻ノ神、カウベ谷、北カウベ谷、南カウベ谷、龍王山田、龍王山田北平、龍王山田尻、宮ノ谷、大谷頭、天向、草木谷、また米里字三ノ崎、金山谷、大町峯、一ノ崎峯、摺鉢谷峯でトレンチによる試掘調査を行い本報告書を作成した。
3. 本書の執筆、編集は清水が行った。
4. 遺構の実測、図面作成、写真撮影は調査に携わった全員の協力により清水、宮前が、遺物の実測、遺構図、土器の浄書は宮前、坂本が行った。
5. 本書に使用した方位は全て磁北を示す。
6. 図面、写真、出土遺物等は北条町教育委員会が保管している。

本文目次

第1章	調査に至る経過	1
第2章	位置と環境	2
第3章	調査の概要	3
1	土下地区試掘調査	3
2	曲地区試掘調査	5
3	曲天向遺跡	8
4	米里地区試掘調査	11
第4章	まとめにかえて	14

挿図目次

挿図1	北条町内遺跡分布図	
挿図2	土下地区トレンチ配置図	4
挿図3	土下地区T2平断面図	4
挿図4	曲地区トレンチ配置図（ふるさと林道大谷線）	5
挿図5	曲地区トレンチ配置図（ふるさと林道穂波線）	6
挿図6	曲天向遺跡平断面図	8
挿図7	曲天向遺跡竪穴住居跡平断面図	9
挿図8	曲天向遺跡出土遺物	10
挿図9	米里地区トレンチ配置図	12
挿図10	米里地区T2平断面図	13
挿図11	米里地区出土遺物	13
	報告書抄録	15

図版目次

図版1	土下地区遠景、土下地区トレンチ2、トレンチ2箱式石棺墓、曲地区遠景	
図版2	曲天向遺跡完掘、曲天向遺跡竪穴住居跡、曲天向遺跡出土遺物	
図版3	米里地区遠景、米里地区トレンチ2、米里地区古墓、米里地区出土遺物	



- | | | |
|--------------|-------------|------------------|
| A. 土下地区試掘調査地 | B. 曲地区試掘調査地 | C. 米里地区試掘調査地 |
| 1. 曲古墳群 | 2. 土下古墳群 | 3. やすみ塚(土下213号墳) |
| 4. 茶臼山古墳群 | 5. 北尾古墳群 | 6. 島古墳群 |
| 7. 島荷山遺跡 | 8. 北尾遺跡 | 9. 島遺跡 |
| 10. 曲226号墳 | 11. 船渡遺跡 | 12. 米里銅鐸出土地 |
| 13. 米里第1遺跡 | 14. 米里第2遺跡 | 15. 天神川河床遺跡 |
| 16. 宇ノ塚遺跡 | 17. 犬屋敷遺跡 | 18. 馬場遺跡 |
| 19. 用露鼻遺跡 | 20. 長畠遺跡 | 21. 茶臼山要害 |
| 22. 中浜遺跡 | 23. 下神1号墳 | 24. 曲第1(岡)遺跡 |
| 25. 曲宮ノ前遺跡 | | |

挿図1 北条町内遺跡分布図

第1章 調査に至る経過

今回の調査は、以下に挙げる3地域において、それぞれの開発事業に伴い行った。

北条町土下地区南側になだらかな丘陵を呈する土下山の尾根付近、北条町土下字奥鐘錦谷850-1において、山土残土埋め立て工事を行いたいとの連絡がオグラ建設株式会社から北条町教育委員会にあったため、本工事予定地内における埋蔵文化財の取り扱いについて工事との調整を図るべく協議を行った。その結果、本工事予定地内には周知の埋蔵文化財包蔵地である米里第二遺跡が存在するため、トレンチによる試掘調査を実施することになった。

北条町曲地区の南部に広がる丘陵部においては、ふるさと林道緊急整備工事に伴い工事主体者である大栄町と同様の協議を行った結果、本工事予定地内には周知の遺跡が見られないものの「北条町遺跡分布図」に示されるように曲古墳群が近接することが確認されているためトレンチによる試掘調査を実施することになった。

また、北条町米里地区の西側に位置する丘陵部においては、一般国道313号（地域高規格）北条倉吉道路工事を行いたいとの連絡が鳥取県倉吉土木事務所工務一課からあつたため同様の協議を行った結果、トレンチによる試掘調査を行うこととなった。

そこで各開発事業ごとに、文化財保護の立場から工事施工予定期間等と発掘予定箇所そして調査体制等を考慮しながら調整を図るよう互いに確認しあったうえで、北条町教育委員会は鳥取県教育委員会とも協議を行い、工事予定地内の遺跡の有無、また分布範囲等を確認するため次のように調査団を編成し、平成9年5月から12月にかけて、国及び県の補助金を受けて町内遺跡発掘調査を行った。

平成9年度調査体制

調査主体 北条町教育委員会

　　教育長 吉田 俊夫

調査指導 鳥取県埋蔵文化財センター

調査担当 清水 直樹（担当、教育課社会教育係主事）

　　宮前 直美

文化財保護委員 松本達之・宇田川 宏・西村勝義・日置条左エ門・前田明範

事務指導 鳥取県教育委員会文化課

事務担当 清水 直樹（担当、教育課社会教育係主事）

第2章 位置と環境

本町は、鳥取県中央部の海岸沿いに位置し、総面積20.99km²の小さな町である。東は一級河川の天神川を境に羽合町、西は大栄町、南は倉吉市と接する。

北部日本海側は、豊かな砂丘農業で知られる北条砂丘が羽合町から大栄町にまたがって広範囲に広がり、南部は土下山という標高70mの丘陵及び標高171mの蜘蛛ヶ家山が位置する丘陵部で、いずれも梨、柿の果樹栽培が盛んに行われている。中央部北条平野は、天神川によって上流から運ばれてきた土砂が堆積することで形成された沖積平野で高低差が少なく、平坦な地域で古くから北条田園と呼ばれている。

このように本町の地形は3地域に分けることができ、各地域ごとに遺跡分布をみてみることにする。

砂丘地では、東に砂丘遺跡で有名な羽合町の長瀬高浜遺跡があるが、本町では、東部の天神川沿いの遺跡（天神山）からは、土師器、須恵器、土馬、銅鏡、鎧片が出土しており天神川河床遺跡からは、縄文から古墳時代の遺物が出土している。

平野部は、北条平野で砂丘後背地のラグーンが、長年の天神川土砂堆積作用によって形成され、非常に高低差の少ない平野であることは上に述べたが、この平野一帯に条里遺構が広がり、北条平野中央南部には、県下でも有名な遺跡で、縄文時代の前期からの遺物包含層、多量の縄文土器、また、丸木船等が出土した島遺跡が存在している。また、対岸にはひきりうす、住居用材とみられる木製品が出土した米里船渡遺跡があり、当時そこで漁業や狩りをして生活を営んでいたことは、島遺跡の丸木船が出土していることから想像できる。

丘陵部は南部に位置し、大きく分けて土下、そして曲の2地域に区分され、いずれも倉吉市の古墳密集地帯に接しており、県下有数の古墳密度の高い丘陵地帯である。土下山では、隣接する倉吉市の向山と連続しており、国的重要美術品に指定された鹿埴輪が出土した、通称やすみ塚と呼ばれる土下213号墳（前方後円墳）が存在する。曲地域では、蜘蛛ヶ家山の周辺に古墳群が位置しており、昨年の調査では古墳時代中期の住居跡3棟、また、後期の住居跡が検出されており、その昔当地を人々が生活の拠点としていたことが想像できる。

今回試掘調査を行った地域は、いずれも土下、曲古墳群に隣接しており、地域の歴史的な事実を解明するうえで重要な手掛かりになるものと思われる。

第3章 調査の概要

1 土下地区試掘調査

調査地点 北条町米里字奥鐘録谷

調査期間 平成9年5月9日～5月28日

調査面積 160.25m²

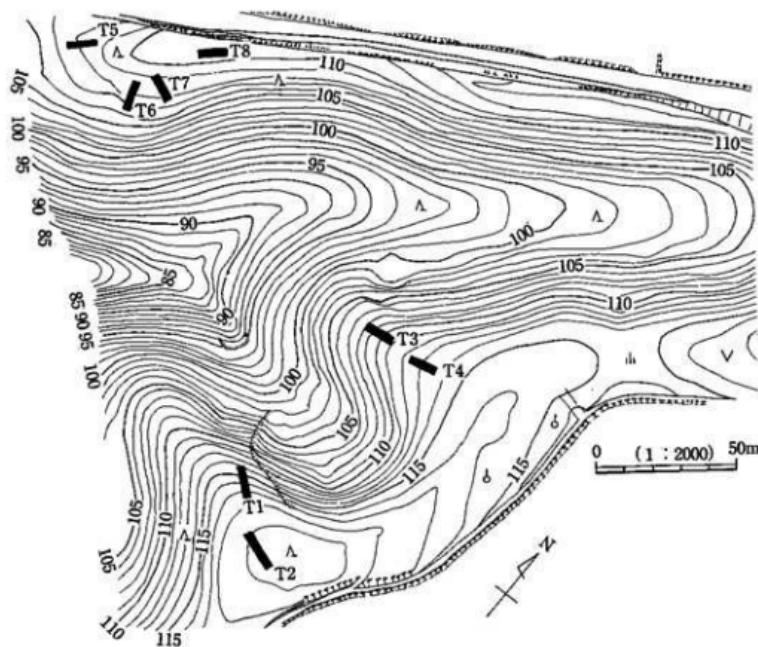
調査概要 工事予定地周辺の丘陵尾根部分には、北条町側では分布踏査により土下古墳群、倉吉市側では平成7～8年度の発掘調査により下張坪遺跡が確認されている。本工事予定地は、2つの尾根を両端として扇状に広がる谷部に設定され、現況は雜木林である。今回の調査は、本工事予定地の両端に位置する丘陵尾根部付近の比較的ゆるやかな傾斜地に長さ10～14m、幅1.5～2mのトレンチ8本を設定し造構、遺物の確認を行った。

その結果、トレンチ2において箱式石棺墓2基が確認されている。(挿図3、図版1) また、遺物についてはどのトレンチからも出土していない。

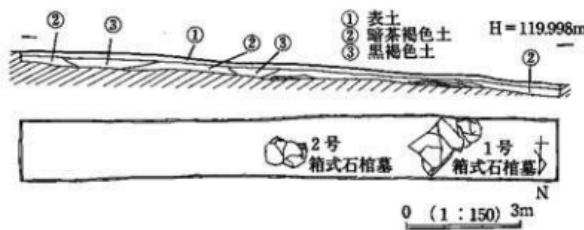
トレンチの規模・面積・検出造構について表にまとめた。

《土下地区トレンチ一覧表》

トレンチ No	規 模 (m)	面 積 (m ²)	出 土 遺 物
1	1.5×11.5	17.25	なし
2	1.5×14	21.0	箱式石棺2基
3	2×10	20.0	なし
4	2×10.5	21.0	なし
5	1.5×10	15.0	なし
6	2×10	20.0	なし
7	2×10.5	21.0	なし
8	2×12.5	25.0	なし



挿図2 土下地区トレンチ配置図



挿図3 土下地区T2 平断面図

2 曲地区試掘調査

調査地点 北条町曲字宮ノ谷他

調査期間 平成9年7月3日～8月21日

調査面積 302.77m²

調査概要 ふるさと林道緊急整備工事は、北条町曲の丘陵部と大栄町原を結ぶ大谷線、同じく北条町曲と大栄町穂波を結ぶ穂波線の2路線からなり、いずれも丘陵谷部及び傾斜地を主に通る。この工事区域内において大谷線は長さ3～16m、幅0.6～3.8mのトレーンチ8本、穂波線は長さ3～10m、幅2～3mのトレーンチ13本を設置し試掘調査を行った。

その結果、大谷線に設定したトレーンチ1においてピット2本を伴った堅穴住居跡1棟が確認された。(曲天向遺跡)

各トレーンチの規模・面積・出土遺物、検出遺構について表にまとめた。

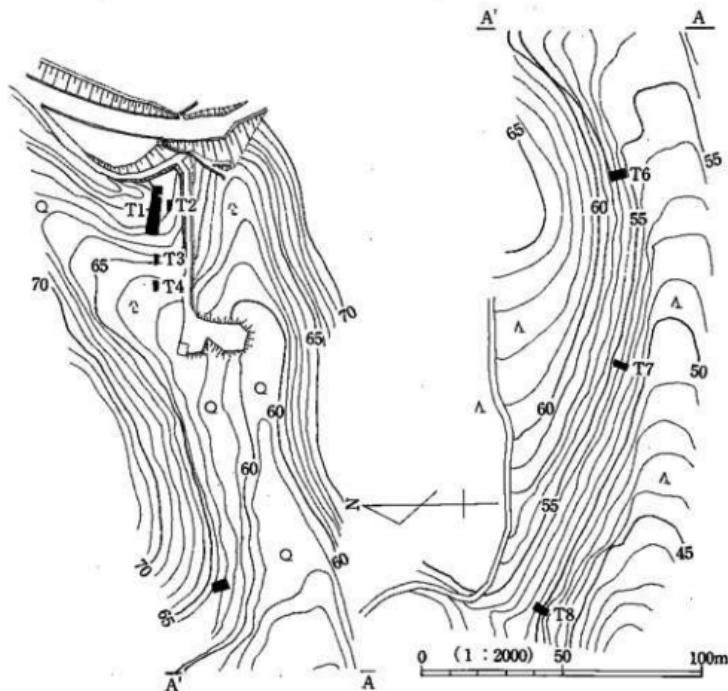
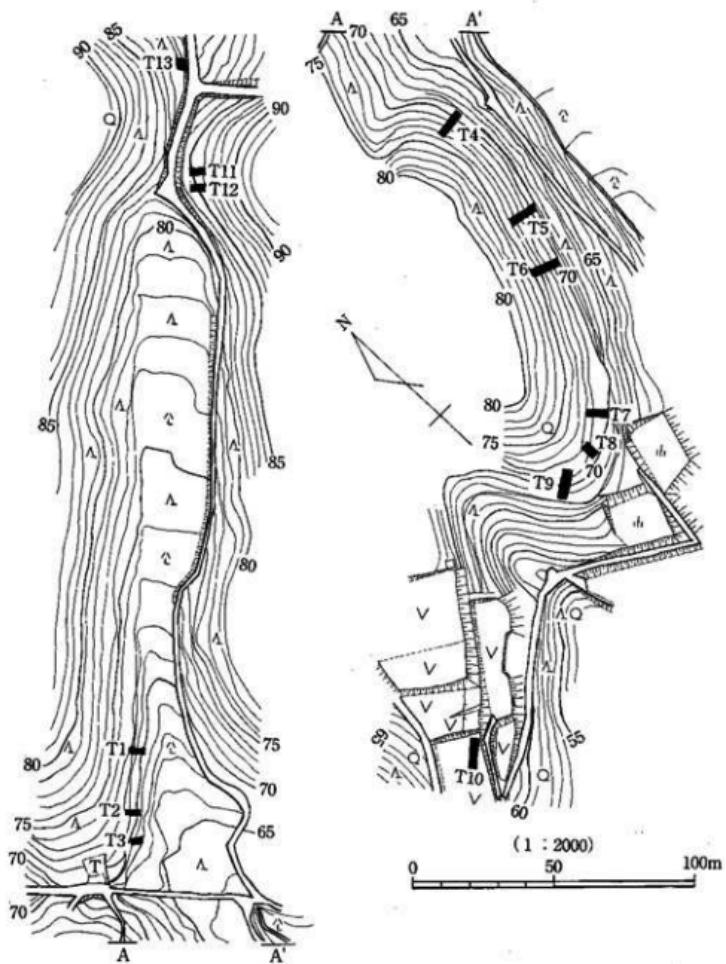


図4 曲地区トレーンチ配置図(ふるさと林道大谷線)



挿図5 曲地区トレーン配置図（ふるさと林道地図線）

《曲地区トレンチ一覧表》

ふるさと林道（大谷線）

トレンチ No	規 模 (m)	面 積 (m ²)	出 土 遺 物
1	3.8×16	60.8	壺頸部、弥生土器
2	0.6×3	1.8	
3	0.6×3	1.8	
4	0.6×3	1.8	
5	3.5×5	17.5	弥生土器片、須恵器片
6	3.0×4.8	14.4	弥生土器片、土師器片
7	2.2×5	11.0	須恵器片、弥生土器片 土師器片
8	2.3×4.9	11.27	弥生土器片、土師器片

ふるさと林道（穂波線）

トレンチ No	規 模 (m)	面 積 (m ²)	出 土 遺 物
1	2×5	10.0	なし
2	2×5	10.0	なし
3	2×4	8.0	なし
4	2×10	20.0	なし
5	2×10	20.0	なし
6	2×9.9	19.8	なし
7	2×9.8	19.6	なし
8	2.2×5	11.0	なし
9	2×7.5	15.0	なし
10	2×10	20.0	なし
11	2×5	10.0	なし
12	2×5	10.0	なし
13	3×3	9.0	なし

3 曲天向遺跡

ふるさと林道緊急整備工事に伴う古地区試掘調査において、北条町曲字宮ノ谷から住居跡1棟が確認された。そこで本遺跡を同一尾根上に存在する周知の遺跡、曲天向遺跡のつながりとして、その範囲を確認したところ工事予定地内にかかる遺跡の範囲が小規模であったことから、平成9年度町内遺跡発掘調査のふるさと林道大谷線工事予定地に設定したトレチ1を拡張して、面積60m²の範囲で本遺跡の全面発掘調査を行った。

位置 北条町曲字宮ノ谷の南西に向かう丘陵尾根部に位置する。床面の平均標高は69.10mを測る。

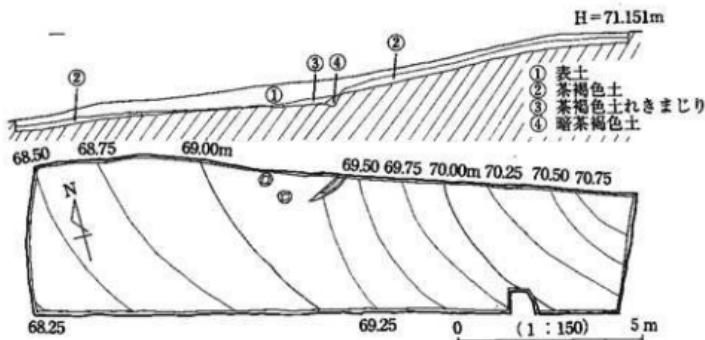
形態 工事予定区の関係から南端のみの確認となつたため全形の確認ができなかつた。さらに耕作により地山が削平されており検出できたのは東側の側壁、その側壁下を巡る側溝、そして床面である。このため平面形は不明である。壁高は最高で30cmを測る。検出した床面は比較的平坦で長辺2.6m、短辺1.5m床面積1.95m²である。

側溝 側溝は現存する側壁下を巡り、幅最大60cm、深さ最大5cm、断面U字形を呈す。

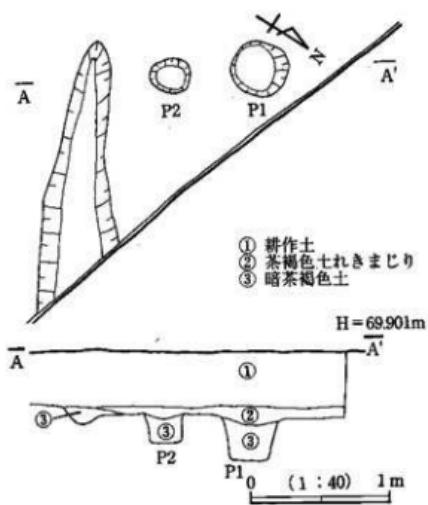
柱穴 柱穴は検出した床面から2本確認された。その性格は住居跡の検出が部分的であるため不明である。規模はP1(42×40-29)、P2(30×28-21)である。

遺物 埋土中や床面から弥生土器壺1~4が出土している。(挿図8、図版2)

時期 床面からの出土遺物から弥生時代後期初頭(青木二期並行期)と考えられる。



挿図6 曲天向遺跡平断面図



挿図7 曲天向遺跡堅穴住居跡平断面図

《曲天向遺跡出土遺物一覧表》

遺物番号	名称	法量	挿図	図版	時代	形態の特徴	手法	胎土・焼成・色調
1	弥生土器 壺	底部径 9.4cm	8	2	弥生時代 後期	・肉厚で底部はしっかりした平底。 ・外縁部はくろナデ、内面はヘラ削り。		胎土はやや粗。焼成は良好。2mm大のレキ混り
2	弥生土器 壺	復口径 20.0cm	8	2	弥生時代 後期	口縁部は大きく外反して立ちあがる。 口縁端部は丸くおさめる。	内外面ヨコナデ。	胎土は密。焼成は良好。1mm大のレキ混り
3	弥生土器 壺	復口径 17.4cm	8	2	弥生時代 後期	口縁端部はわずかに拡張され内傾する面をもつ。	口縁部内外面ヨコナデ。 内面頸部以下ヘラ削り。	胎土は密。焼成は良好。1mm大のレキ混り
4	弥生土器 壺	復口径 12.3cm	8	2	弥生時代 後期	口縁端部はわずかに拡張され内傾する面をもつ。	口縁部内外面ヨコナデ。 内面頸部以下ヘラ削り。	胎土は密。焼成は良好。1mm大のレキ混り

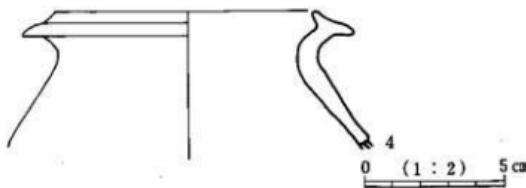
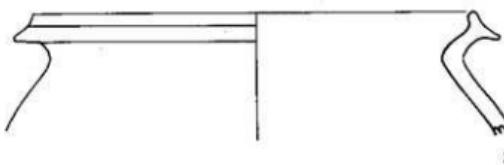
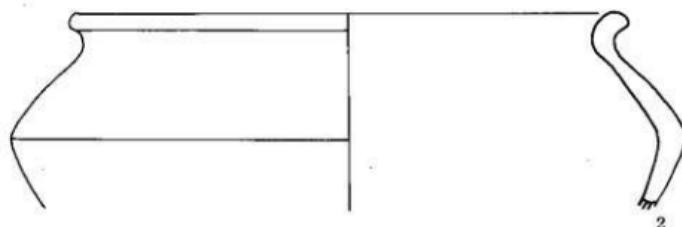
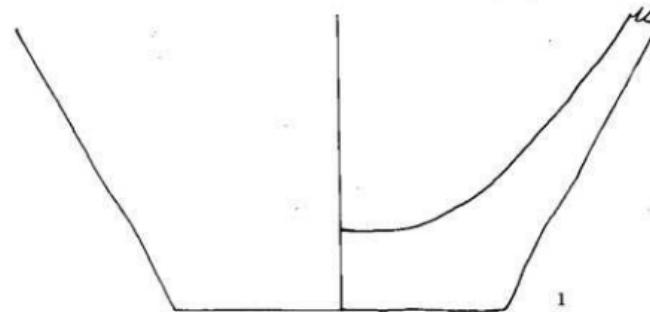


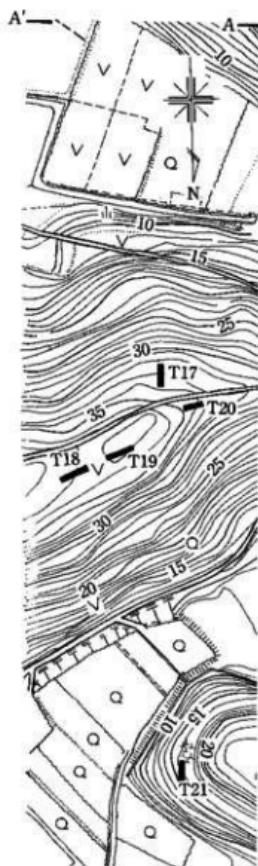
插图 8 曲天向遺跡出土遺物

4 米里地区試掘調査

調査地点 北条町米里字三ノ崎他
 調査期間 平成9年10月23日～12月16日
 調査面積 324.50m²
 調査概要 工事予定地は、東側平野部に向かって三ノ崎、金山谷峰、大町峰、一ノ崎峰、摺鉢谷峰の5つの丘陵地がせり出した地域を南北に横断しており、現況は丘陵部が雑木林、平野部は水田として土地利用されている。事前の踏査により平野部は遺物の散布が認められなかったため、今回の調査は、本工事予定地の丘陵尾根部付近の比較的ゆるやかな傾斜地、斜面途中のテラスを中心に長さ3～13m、幅1～2mのトレンチ21本を設定し遺構、遺物の確認を行った。
 その結果、トレンチ2において竪穴住居跡1棟が確認された。(挿図10、図版3) また、工事予定地内には12基の古墓も確認されている。(図版3)
 トレンチの規模・面積・検出遺構・遺物について表にまとめた。

《米里地区トレンチ一覧表》

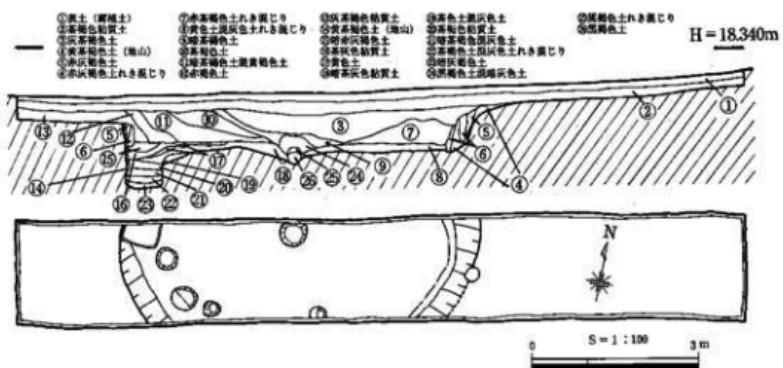
トレンチNo	規 模 (m)	面 積 (m ²)	出 土 遺 物 遺 構
1	2.0×6.0	12.0	・土師器片
2	2.0×13.0	26.0	・住居跡 ・土師器片
3	2.0×10.0	20.0	・土師器片
4	1.0×7.5	7.5	
5	2.0×9.0	18.0	
6	1.5×7.0	10.5	
7	2.0×8.0	16.0	
8	2.0×9.0	18.0	
9	2.0×8.0	16.0	
10	1.5×9.0	13.5	
11	2.0×10.0	20.0	
12	2.0×10.0	20.0	
13	2.0×7.0	14.0	
14	2.0×3.5	7.0	
15	1.5×4.0	6.0	
16	2.0×10.0	20.0	
17	1.5×8.0	12.0	
18	2.0×10.0	20.0	
19	2.0×10.0	20.0	
20	2.0×7.0	14.0	
21	2.0×7.0	14.0	
		計 324.5	



上古墓

0 (S = 1 : 2000) 50m

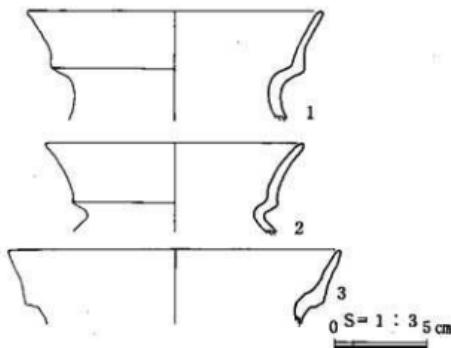
挿図9 米里地区トレーンチ配置図



挿図10 米里地区 T 2 平断面図

《米里地区出土遺物一覧表》

遺物番号	名称	出土場所	挿図	法量 cm	時代	形態の特徴	手法	焼成	色調	胎土
1	土師器 壺	T 2	11	3 復口径 16.0cm	古墳時代 前期	やや外傾して立 ちあがる複合口 縁で口縁端部は 丸い	内外面共にナデ	良好	淡黄茶色	1 mm弱の 砂粒含む
2	土師器 壺	T 2	11	3 復口径 14.0cm	古墳時代 前期	外傾し、外反ぎ みに立ちあがる 複合口縁で口縁 端部は丸い	内外面共にナデ	良好	淡茶褐色	1 mm弱の 砂粒含む
3	土師器 壺	T 2	11	3 復口径 18.0cm	古墳時代 前期	外傾して立ちあ がる複合口縁で 口縁端部は丸い	内外面共に回転 ヨコナデ	良好	淡茶褐色	1 mm弱の 砂粒含む



挿図11 米里地区出土遺物

第4章 まとめにかえて

平成9年度は、山土残土埋め立て工事、大栄町営ふるさと林道緊急整備工事、一般国道313号（地域高規格）北条倉吉道路工事に伴う試掘調査において土下地区8本、曲地区21本、米里地区21本の計50本のトレンチを設定し、遺跡の有無を確認した。

土下地区では、倉吉市との境界を隔てて下張坪遺跡が所在する同じ尾根上にT2を設定し掘り下げたところ、遺物は検出されなかったが、いずれも蓋石が覆われたままの石棺、1号箱式石棺墓（蓋石縦1.9m横1.0m）、2号箱式石棺墓（蓋石縦1.1m横0.8m）を検出した。T2の周辺には、周知の古墳、土下274号墳が存在しており、今回確認された箱式石棺墓は土下274号墳の埋葬施設にあたるものと考えられる。その他のトレンチから遺構、遺物は検出されなかった。

曲地区では、大栄町営ふるさと林道大谷線工事予定地に設定したT1より竪穴式住居跡1棟を検出し、周知の遺跡、曲天向遺跡を確認した。そこでT1付近にT2、T3、T4を設定し、これらのトレンチからは遺物、遺構とも確認されなかったことから工事予定地内に重複する曲天向遺跡の範囲を限定し、試掘調査に引き続き、発掘調査をおこなった。結局、調査区内から検出された遺構は竪穴式住居跡1棟で、全形の一部しか検出されなかつたため、その平面形及び性格等は確認できなかったが、時代は床面からの出土遺物から弥生時代後期初頭と考えられる。曲地区でこの時代の遺構が確認されたのは、平成8年度の曲管峰長谷遺跡に統いて2例目であり、これらの遺跡が隣り合った尾根上に位置する等の周辺の様相から、当地においてこの時代の集落が営まれていたことがうかがえる。また、T5～T8では土師器、須恵器細片が多少出土したが遺構らしきものもなく、同じ丘陵の尾根部に位置する曲古墳群からの流れ込みと推定されるため、遺跡は存在しないものと考えられる。大栄町営ふるさと林道穂波線予定地に設定した13本のトレンチについては、いずれからも遺物、遺構が検出されなかった。

米里地区では米里字三ノ崎の丘陵部斜面途中のテラスに設定したT2から竪穴住居跡を確認した。時代は床面からの出土遺物より古墳時代前期頃と思われる。また同じテラス上に設定したT1、T3から土師器細片が出土したことから遺跡の範囲を定め、新発見の遺跡、米里三ノ崎遺跡とした。また、この他に米里字三ノ崎に1基（米里三ノ崎遺跡内に含む）、米里字大町峯に4基、米里字摺鉢谷峰に7基の近世、近代の古墓を確認した。

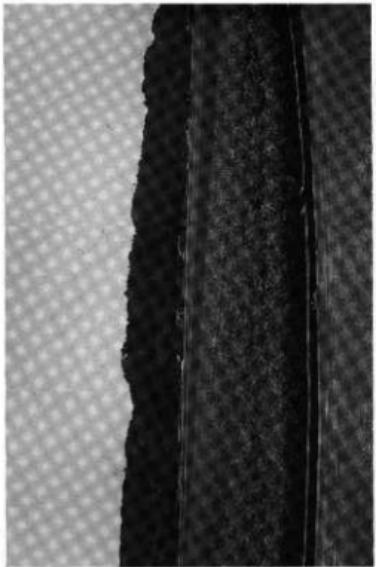
今回の試掘調査により曲天向遺跡の確認、米里三ノ崎遺跡の新発見という成果を得るに至り、この地域における当時の繁栄の姿がより明確なものになった。特に米里三ノ崎遺跡をはじめとした一般国道313号（地域高規格）北条倉吉道路工事予定地は今後、詳細な調査が予定されており、この地域の歴史を解明していくうえでの成果が期待される。

報告書抄録

ふりがな	ちょうないいせきはくつちょうきほうこくしょだいしう						
書名	町内遺跡発掘調査報告書第7集						
副書名							
卷次	7						
シリーズ名	北条町埋蔵文化財報告書						
シリーズ番号	24						
編著者名	清水直樹						
編集機関	北条町教育委員会						
所在地	〒689-2111 鳥取県東伯郡北条町土下112 TEL0858-36-3111						
発行年月日	西暦1998年3月16日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 東經	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
土下274号墳	鳥取県東伯 郡北条町土 下字奥鎌崎 谷	31366	35°27' 26"	133°49' 18"	1997.5 ~1997.6	160.25	山土残土 埋め立て 工事に伴 う試掘調 査
曲天向遺跡	鳥取県東伯 郡北条町曲 字宮ノ谷	31366	35°28' 21"	133°47' 35"	1997.7 ~1997.8	302.77	ふるさと 林道緊急 整備工事 に伴う試 掘調査
米里三ノ崎遺跡	鳥取県東伯 郡北条町米 里字三ノ崎	31366	35°27' 40"	133°48' 44"	1997.10 ~1997.12	324.50	一般国道 313号(地 域高規 格)北条 倉吉道路 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
土下274号墳	古墳		箱式石棺2基				
曲天向遺跡	住居跡	弥生時代 後期初頭	竪穴住居跡1棟	弥生土器			
米里三ノ崎遺跡	住居跡	古墳時代 前期	竪穴住居跡1棟	土師器片			

図 版

挿図 1



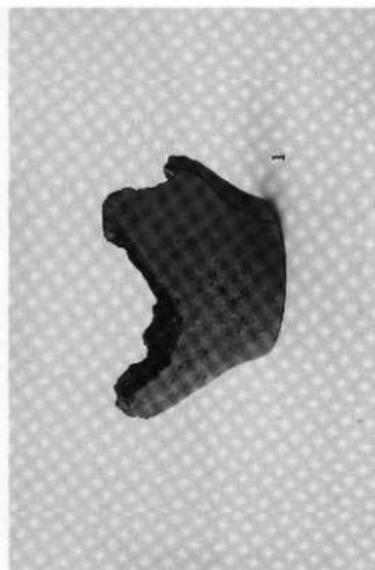
挿図 2



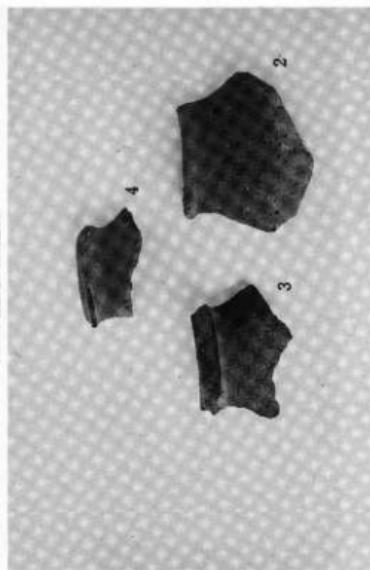
曲天向遺跡完掘（西から）



曲天向遺跡壁穴住居跡（南から）



曲天向遺跡出土遺物



曲天向遺跡出土遺物

挿図 3



米里地区遠景（南東から）



米里地区トレンチ2（西から）



米里地区（米里字大町差）古墓（北東から）



米里地区出土遺物

平成10年3月印刷

平成10年3月発行

北条町埋蔵文化財報告書24

町内遺跡発掘調査報告書第7集

編集 烏取県東伯郡北条町土下112

発行 北条町教育委員会

印刷 烏取県東伯郡羽合町長瀬818-1

製本 勝美印刷(株)鳥取支店